THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十月五日

定價金四錢

女學雜誌

第三十八號

毎月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●(女學叢誌)醫者を需むべし●(中外新報)十二件●(學藝一斑)理學一斑●(對譯)英語羅馬字譯●(列女傳)町田融女の傳●(雜記)婦人の高等教育○毛髮の事○賢女言集●(新作物語)巣守の妻(春のや主人)●(家政要報)五件●(御伽草)二件○數學問題●(寄書)婦智を進る策○貴婦人に子なき故如何を問○詩歌數件

◎女學叢誌

醫者を需むべし

人間世界には病氣の種類數かぎりもなく多くして四百四病はたゞその數取となすにも足らざる程なれば醫者の種類もまた隨て多きとなり人の身體に些少にても病氣あるときは急ぎ醫者を迎へてその診察を乞ひ治療に怠りなかるべく醫者の學問もまた近來に至りては益々開けゆきてをさ〳〵歐米文明社會の醫者にも劣らざるほどに進みたるとなれば余輩さし向き此事の心配をなすに及ばざれどもこれは之れ肉體の病氣にして肉體の病氣を治療するの醫者たるのみ余輩は他に尚ほ醫者を要すべき病氣の種類二つありと思ふなりその一は人の權利上に生ずる病氣にしてその種類もまた多かるべけれども總て權利上に損害の病氣を蒙りたるときはこれが回復を計りて治療を施すべきことと人の生命に亞で大切なればこそ世には法律學者といへる一種の醫者あるなり今の日本婦人の權利は甚だ薄く甚だ弱く女は三界に家なしとさへいひて男子に對しては殆んど權利なきものあれば固より多くの財産を所有するものもなく人と交際するとも至つて狹隘きがゆゑに人に權利を犯さるゝことありて權利の上に於ては大病人たるも恰も盲者に眼の病あると同樣更らに不自由を感ぜざるとながら今よりこの權利を回復し男子と同樣に成る可く健康なる權利を所有せんとする身にありてはこれを治療するの心得なくんばあらざるなり而してこれが醫者たる法律家も日々に進步して月々に學力と實驗とを研き上げたるもの出來るべければこれまた余輩の左ほどに心配するに及ばざるべしといへども今一つの病氣に至りては余輩甚だ心配しこれを思へば正眞の病氣となるまでに心苦しき思ひあり扨てその病氣といふは我々日本人民の道德上の病氣なり道德の上に欠るところを來し出れるところを生ずるを道德上の病氣とはいふなり然るに我社會の道德は甚だ不健康なるものにて支那風の古方に由り漸くにその命脈を繫ぎ來りしものなるが今より文明世界に出て活潑なる社會に交はり我が日本といふ全體を純良なる血液に富たる健康體となさ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

んには是非とも道徳の改良をなさずんばあらざるなりこの改良をなさんにはその方法多かるべしといへども身躰を健康ならしむるには肉食をなし清潔なる空氣を呼吸し運動を活潑にせざるを得ざると同様に西人も學問は心の食物なりといへるからには此食物を改良し四角にして六かしき文字もて綴りたる書物に依て學問するがごときは心の麁食をなし世界に普通する眞理に基きたる心の肉食をなし文明國の空氣を呼吸し文明國の活潑なる人々と交際し心の運動を劇しくする時は或は以て道徳の健康を促すに幾からんかと思ふなり總て精神の純良にして活潑なるものはその身体の運動もまた活潑にして病氣なく心身の相關係して離れざることは人の能く知るところなり道徳は國の精神にして道徳の改良と國の進歩とは相伴ふて離るべからず道徳にして改良せずんば如何に國をして文明ならしめんとするも到底望むべからざるべく國の進歩せざる限りは如何に道徳の改良を計るとも決してその功を見ざるべし國の進歩と道徳の改良とはよくものゝ譬へにいふ車の両輪のごとく双方並び進まざるを得ざるなりされば苟にも我が大日本國をして文明開化の健康なる國柄となさんことを欲すれば是非とも道徳の改良をも計るべきことにて兎ても支那風の古方に依りこれが健康を維持することは出來得べきにあらざるなり扨て追々に國も進歩するに随ひ我が社會の道徳も健康なるものとならんにはこれが病氣を感ずることもまた大いなり譬へば病身なるものが時々風邪に犯されたればとて常の事なりとして左までに驚かざるも健康なるものが偶に風を引たらんにはその驚き一方ならざると同じく道徳の健康となり行かんには聊か欠るところ僅か曲れるところあるもその病氣を感ずることまた甚だ大いなりこれを治療するには最早素門靈樞の古方に依るべからず神農の嘗め分けたる草根木皮もその功なかるべしさらば道徳の健康を保ち道徳の病氣を治療するには如何なる醫方により如何なる醫者を迎へて診察を乞ふべき歟今既に診察を乞ふの時に迫りたり如何なる醫者を迎ふべき記者の胸中には定りたるところあり如何なる醫者なるべきか讀者も凡そは察し給はん記者の心を當てゝ見給へかし

◎中外新報

○小松宮歐洲へ御發行　今般歐洲へ差遣の命を蒙らせ賜ひし小松宮彰仁親王殿下には御息所および隨行員三宮同宮別當同く夫人その他とゝもに去る二日午前七時四十五分新橋發別

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

仕立の滊車にて横濱に赴かせられ同港官內省御用邸にて暫時御休憩の後シチーオフペキン號に御乘船同十時米國桑港へ向け解纜あらせたり右に付北白川、伏見の兩宮および兩御息所諸大臣およびその夫人がゝ等高官の內外人多く見送り奉られき(以上ハ三日の日々新聞に由る)かく止んごとなき御あたりの御洋行に御息所を伴はせられたるハ此度が始めてのことならん殊に三宮別當の夫人ハ伊國の生れなりとか聞えたれば御道中御息所の御便利大かたならざるべし

○俳優學校　エドワード、ルセルといへる婦人ハ近日倫敦に俳優學校を設立しデルサート氏の流儀ヿ隨ひ男女の俳優を養生んとの許畫中のよしなるがデルサート氏ハ佛人にて嘗て發言法および美容動止の術を敎ふるの法則を定めて多くの生徒を敎へたりし人にて彼の仙人と呼れたるラセルもまた氏の生徒たりルセル婦人ハ即ち二代目デサート氏の高弟にして嘗て氏とゝもに佛國パリ府に美術學校を設立しその開業式の晩氏ハ心臓病にて頓死せり婦人ハその後米國に渡りデサートの流儀を敎授し敎へを受けしもの甚だ多かりしが今度いよいよ倫敦ヿ學校を建て當秋開校式を行ふ筈なるよし

○女子敎育の計畫　文部省にて官髙きかた〴〵ハ我邦女子の敎育ハ聊かその緒に就きたるがごとくなれどもこれたゞ上流社會に止まりいまだ中等より下等の婦女子に普及せざるハ遺憾なりとて府下に一の學校を設立し專ら下等社會の女子に職業を敎へ自營の道を得せしめ下等女子の品位を上進せしめんとの目的にて廣く同感の有志者を募らるゝの計畫あるよしよてその計畫實施の日に至らば文部省より右學校の用地を小川町邊に貸與せらるゝまでの都合に運び居れりと聞く(日々新聞に見えたるがいと喜ばしき報なり

○婦人の敎員　我邦にても婦人にて學校敎員となるものゝ追々に增殖せんとハ記者の希望に堪へざるところなるが米國にてハチカゴ府のミにても婦人にて諸學校の敎員たるもの千四百人もありといふこの中にハ盲啞の敎員もあり獨逸語、音樂、畫學等の敎師もありまた同府の諸學校の校長も過半婦人なりと同地の新聞に見えたり

○女生徒募集　東京レース製造所にてハ過般試驗を執行し現員四十九名の生徒にて一時ハ募集を見合する筈なりしが今度更らに三十一名を募りて八十名の定員に復する事となり今月中に募集せらるゝ都合のよし時事新報に見ゆ

○米國工女の給料　同國紐育州のトロイといふところにて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此ほど諸職工場の工女一万五千人ばかりも申合して休業をなし雇主を困らせんと企て二箇月間休業したるよしなるが此工女等の給料ハ平均一週間に八圓なりとの事なれば二箇月間の休業にて工女等の総躰の損ハ百万圓なりし由

○パリスにて流行　の女帽子ハ高き形にてこの節四通りあり、ローランド形といふハ黒き縁を丸く折りかへしレースを巻き附けたりハーレクインといふ形ハ雲入り繻子を以て飾り大オ、ヴン形といふハ英國の農婦が冠れるごとき黍藁の帽子を三色或ひハ無地の赤き紐にて飾り外一種はレムブラントといふ形なり日傘ハ目立て花美なるもの流行し赤色或ハ虹色またハ三色染めなどの類なりと英國婦人雑誌に見ゆ

○産婆の洋行　淺草區福富町三番地の産婆學校と幹事群馬縣下南勢田郡田津村彌一郎の次女尾池よね(廿五年九ケ月)ハ産婆學研究の爲め米國オークランドへ留學する都合にて去る廿二日その筋へ海外旅行劵を出願せりと聞たりしが去る一日にハ神田明神の開化樓に於て同校卒業生幷に生徒等集會して送別會を催ほせりと聞く

○女醫　婦人にて醫學士たるものハ英米のみにあらずして佛國にて醫籍に記るしある現在の女醫ハ百七十人に下らずといひまた瑞西にて千八百七十四年以來にドクトルの稱號を得たる婦人七十五人ある中七人ハ英人なりといふ

○演劇改良の演説　去る三日午前九時より一ツ橋外第一高等中學校の講義室に開きたる文學會の例會に於て内務省參事官末松謙澄氏ハ演劇改良の意見を述べ新劇場構造の位地、劇場中の結構棧舗道具立より脚本作者れよび俳優の一長一短等を凡そ二時間ばかり演劇せられ聽衆堂内に充滿したる中に市川團洲も見えしよし

○外國仕立の女子　去る一日の日々新聞に「東京府下の女子を教育せらるゝ或る場所にてこの程外國より高尚なる貴女一人を教師として雇ハれたるがその目的のある所ハ日本の生徒即ち同所に在る婦女子をして純粋なる歐洲風の教育を受けしむるにありされはまづその練習所として彼の女教師が好むごとく一棟の歐風家屋を新築せられその室にハ應接室あり待客室あり食事堂あり喫烟室あり化粧室あり踏舞場ありその外厨房、藏衣房、寐室、浴室に至るまで皆備へてこの所に出入る生徒にハ悉皆木綿の洋服を着せ教師先生眞先に立ちて來客の接待、談話の仕方、化粧の工合、衣裳の着こなし、蹈舞ハ素より專要の技藝として常住坐臥、衣食、進退、言語、應接、世辞、挨拶

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まで悉皆彼の土の風俗を學び日曜の休暇には近日出來る改良芝居へ揃つて押出を結構と聞たるが（是までは記者の最も喜ぶところなり）扨て卒業の曉にこの生徒連即ち生れは東洋日本國仕立は西洋英吉利風半東半西の女子達を誰が貰つて呉れるかサ」とありたるがすゑの論賛に至りては余輩甚だ不快を感ずるなり何故に日報記者は文明開化は西洋のものなり東洋人にして之を學べば嫁に來てがあるまじといむはざる

◎メイ氏の遺産　英國下議院の書記官たりしトーマス、エルスキン、メイ氏といへは我が邦にても人の知るところなるが本年五月に男爵に敍せられたりしに間もなく死沒せられしを以て人みな惜みあへりしが氏の遺産は動産の總額一万五千ポンド（凡そ七万五千圓なり）ありしを遺言書に由り二人の姉妹に年々若干を與へるの餘は殘らず寡婦となられたるメイ氏の婦人に讓ることゝ定まりしよし

◎學藝一斑

學理一斑

第二章　實体物　（礦物）

〔第十二節〕普通の天然物の中最も普通なるものは水なり人々日々に用ふるところなるがゆゑに水に就て普通のことは能く知ることなれどもろの餘に意を用ふるものなく進んで尚は知らんと欲することなき人々は水の力その性質また水に就ての自然の定則などを知らざること甚だ多く容易に知られ得るときさへも解説をなすこと能はざるほどなれば理學上まづ水の事より初むべし

〔十三節〕水杯の事　こゝに半分ばかり水を充たしたる水杯ありと假設せよこの水杯は人爲物なり（第五節の如し）即ち或る天然物を集め熱して溶解し終にガラスになしたるなればガラスは天然物を以て人の造りたるに相違なしさてまた水はこれに反し天然物にして河、池、或は涌井より汲み來りたるのまたは雨降りて屋根より落ち來りたるが水桶に溜りしを汲み來りたるかに外ならざるべし

扨て氷は固有の性質甚だ多く譬へば見透すことを得るほどに透明の質あり氷に觸れば冷く感せしむるの性質ありまた砂糖のごとき物を溶解しむるの性質あり然れどもこれらの性質に就き解説しを初むるは便利にあらざるがゆゑに他の事より解説しを初むべし

〔第十四節〕水は物の間隙を塞ぎ、物を押す力あり、重量あり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

また動力を移すことをなし得るが故に水は一の物体なり
水は水杯の中に入り其空所を充すを見れば間隙を塞ぎ「量積」あるものに相違なし底のある水杯に水を入れこれを彼の先きの水杯の上に蔽ふときは下の方なる水杯には既に水あるを以て上の水杯の中にある水をして下の水杯に入ることを得せしめざるべしまた高きところより水中に飛び入り人体水面に達したるとき甚だしき衝突を受くべしこれ水に「押す力」ある證據なり

彼の水杯に入れてある水を捨るときは空杯となるべしこの空物となりたる水杯は前に水の入れある時よりは甚だ輕くなるべしこれ水に「重量」あるがゆゑなり

また水杯中に入れある水を何にても一寸立てかけたるものに投げつくるときは自巳の力により立て掛けあるものに當りて倒すべしこれ水に運動力を與ふる時は「運動力を他に移す」の性質あるが故なり

かくのごとき現象を總て水の性質とはいふなり

總て間隙を塞ぎ、壓力(前に押す力といへり)あり重量ありまた運動の力を他のものに移すものを「實物」「物体」或ひはさゞ物といふ故に水は實物即ち物なり

◎對譯

○泰西箴諺の直譯

(甲)㊀汝自身(を)㊁助(よ)㊂而て㊃神(が)㊄汝(を)㊅助く㊆べし

(乙)㊀槲の木(は)㊁一つの㊂毆(を)㊃以て㊄㊅㊆倒されぬ

(丙)㊀惡く㊁なされたる㊂仕事(は)㊃二度㊄なされて㊅㊆あれねばならぬ

MAXIMS & PROVERBS.
泰西の箴諺

(甲) Aid yourself and God will aid you.
㊁ ㊀ ㊂ ㊃ ㊆ ㊅ ㊄

〔意譯〕神は自から助くるものを助くべし

(乙) An oak is not felled with one blow.
㊀ ㊅ ㊆ ㊄ ㊃ ㊂ ㊁

〔意譯〕槲の木は片手で毆うては倒されぬ

(丙) A work ill done must be twice done.
㊂ ㊀ ㊁ ㊆ ㊅ ㊃ ㊄

〔意譯〕惡しくした仕事はまた爲ねばならぬ

MY WIFE IS AWAY (TSMA GA RUSU.)

Citizen to cabman—"Why do you beat your horse?"

Cabman —"Why? because my wife is away."

Danna ga tuzibasha no gyosha ni—"Naze sonnani uma wo butu no da?

Gyosha—"Hei watakusi no kakā ga rusu desu kara.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○町田融女の傳

萬のわざごとに師に就て學び得たる道々により其身の擧れともなり家を興すたよりともなれるからハ師の惠みを忘れずのしてみ悦びて其ほど〳〵に報酬するハ毫珍らしげなき事ながら多くハ我ならひ學びし事を忘れてれのづから成し遂たるやうにも言傚しあるハ其師を貶しめ謗りなどあらぬ腹黒きわざする人もあるなかに女にて能く其まことの道を履みて男もよくすまじき事をなして後の世までも師恩のふかきよしをわかしたるハ普通の者の及ばぬ處とぞいとまし町田融女ハ高井飛驒守の家臣小杉吉彌のむすめにて幼きより畫を好ミ狩野融川法眼の弟子とありしが女ながら多くの弟子に超えて其道よいたり深かりしかば號の一字をわかち與へて融女とハ呼せられしなり後堀田攝津守の家臣町田昌豊の妻となりて女二人を擧け家の事とりまかなふ傍ふにも筆とるとを棄ず女ハ更なり百人餘りのをしへ子をもちて畫の道を敎ふるとに意をふかめ終に師の恩を忘れぬ事を碑に記してそが香華院なる荏原郡池上村の南の院に建たるハ世に類ひおほからぬいみじき人なり其碑の記文ハ下に記せるが融川法眼ハ探幽齋守信の甥養朴常信の二男隨川岑信の五代の孫にて優れたる巧手なりしとぞ

融女紀師恩碑

前田夏蔭撰

もとの式部卿法眼融川寛信と聞えしハ其家の世々の跡を受てはやくより畫かく道にすぐれたる聞えありしかば若のりしより大みとのゝ奥繪師といふもののつらに召入れられにけりこハ文の道に桂を折るにもまして家々の人々此撰びに入るをなむ身の榮えと競ふとにてありける漸盛の齡に至るまゝにいよゝ筆の心しらひ至り深くけは以こよなかりければ行末ハむかしの賢き筆どもにもはと〳〵立ならびつべき人の世に顯れぬるなめりと其比なべて世に愛はやしけり此法眼心ざまいともすくやかに物に滯らぬ人にて其道をたゞし敎ふるはた強くひたぶるよ在せしかば弟子と呼れたる限りハ何れも〳〵れしなべたる際にハあらざりけり其が中にひとりぬけ出て世よ殊なる聞えをとれるハ飛驒守高井の何某に仕へし小杉吉彌の女融女に優れるハわらぬなるべし此刀自いともいわけなかりしよりあやしう畫かくとを好みて難波津にれりたつかたハ對ふ硯のうみわさりつゝ只繪嶋が磯よのミ心よせてかきすさぶをわざとせしのば初めの程ハ両親もいとうけぬとに思ひて度々

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

これを誡めしとぞ昔し伊豫の入道の幼かりしころ戯れわざに廊の壁に不動尊のみかたをかきたりけるを畫を見知れるまらうど有ていといたく愛のゝしりければその父ぬし終に是を學ぶとを許されしとなむ米元山主の童なりし程も堂の板敷におい鼠のはしるさまをかきたりしに師の僧目を驚かして夫よりこのわざをいましめずなりしとかや是も彼もろの道によりてこそ後の世ま名をばとゞめしか融女の父なりし人もさもや思ひとりけむ七歳のとしより板谷桂意のぬしのかけるもの何くれと習はせたりしに桂意のぬしも優れたる處ある畫のきなりければこの子の筆の勢ひ殊なるを見て思ふところやありけむ融川法眼のもとにこれ弟子として

六百三十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

敎へたて賜へとて九のとしより讓られしかば狩野の家の敎へをなむ學びろめたりけるしかありしよりいく程もなく師の寛信といふ名を分ち與へられて寛好女と呼れて絶間なく徃かよひつゝかけるもの取出て敎へうくるに師の法眼いつもけしきよからず大抵にさてもあるべききは〳〵までのどめも措ず嬉じむづかられしのば女子の心にはいとつらう悲しきとに覺えしを十六といふ年の事とかや久隅守景のかける山水のかたのえもいはず面白きをうつしとりて師の前にいだし法眼これを見て手をうちてこの少女がわざはや我が道に入りぬとていと痛ぐ悦ばれて誡めいとれけるおほよそ古へより女の書に名たたる人多からず一條のおもとの自らのさまを鬼の面にかきなしつる五條の御のおもひに燃る身を寫し出せるなど書にも記し傳へられしは詞の花のにほひを淺へたるにこそ遠き世に其わざも聞ゆるなれ當に此道によりて其名あるが世々に數多も聞えゝぬは固より容易からぬわざなればぞかしされはいかでんので昔の賢き跡にも劣らじと思ひ勵みて生むも死むも此道にありと思ひ定めてよといともおぞろ〳〵しう云ひ諭されていよゝ家の敎を惜むかたなく傳へられければ深く此敎を心にしめつゝ身を抛ちて勤めけるに二十に二つこえたる年おこと

がわざ今は成熟へりとて自らの號をとりて融女としも名づけられにき舊の名は榮となむよばれたりき斯ありてより後いよよ其名あらはれてかける物こひ求むる人年々に數まさる樣にはなりしなりける此人父のまな女にてありしかば早くより攝津守正毅朝臣のみうちなる町田昌豐のもとにすくせ定めて男女の子あまたもたるを其おほいでをば友寛女と名づけ中のをば好一女といへり二人ともに敎へたてゝ畫かくわざをいとよくせりされば家刀自として營むべき事ども多かむなるをさるべきさまに取まつろへつゝ其暇のひまでとは夜中曉とも云ず筆とりて物せらるゝ事聊かたゆみなかりしかばいつしかと大御殿のうちにさへ其名聞えてうち〳〵に迎へつゝ學び賜ふ御達もいと多くなむなりきにける斯て此刀自の思へらく我は二十三なりし時師の法眼は三十ま八餘り賜へる年別れ參らせしをかぞふれは來む年はゝや二十年あまり三回の春になるめり今はのく女二人に此わざを傳へて女のをし子百人餘をも敎へたてゝかけても思はぬ高き御あたりにもいとかしこうもていつうるゝは都て師の庇陰によらずやはあるありし慈悲の深さま比へては此荏原の海もなほ淺かるべく年月のしげき恵まよそへては彼多摩川の砂も數ならじをいかで我らみの子のつ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ぎ〳〵に傳へ示して長く忘れぬしるしともせまほしく又我敎ふる人々にも告聞えて其流れ汲るどちハ倶に師のみかげを仰ぐよすがともなしてむをとて聽て斯く思ひおこして當初いとも懇ろに敎へ立られつる事のよしを記して碑營み建らるゝ事となりぬるになむ有けるおのれハ初より此事の顚末知れる者にもあらねどふりはへていと切に求めらるゝに委せて都て問ひ聞けるまゝに記しつけたるなりけり　抑融川法眼の世にいみじく在せし事どもハ其家の傳へに遺れゝばこゝに盡さず今ハ只融女のこゝろざしを顯そをのみむねとしたるハ此碑を建ることのもとなれハぞかし　天保七年歲次丙申三月

◎雜記

○婦人の高等敎育

敎育上男女の區別をなすべきものたるや否を決するにハ心の働きに於ても身躰の構造に於ても天然から定りたる男女の區別あるものたるや否現に心躰ともに女ハ男より弱くして男ハ女より強き有樣なるハ天然に定りたるとなるや或ハまた古來社會の習慣によつて然るものなるや否を穿鑿せずんばあらざるなりこの穿鑿ハ即ち心理學と生理學の上に涉とにて記者もまた聊か信ずるところなきにあらざれば近きに之を開陳して世の敎育家に質すべしと豫てより思ひ居たりしがこのとに就てハ歐米に於ても疾より兎角の議論ありしとにて近ごろに至りてハ婦人ハ益々進歩して高等の敎育を受け殆んど男子と拮抗はんとするの勢ひあるにより男女の區別論益々盛んとなり婦人ハ心も身躰とゝもに男子より弱きが上に尙ほ進んで高尙の學問をなし餘りに心氣を勞するときハ益々身躰を弱くして終にハ子孫發生の爲めによろしからず到底男子と同樣に腦力を勞する高尙なる學術を以て競ふとハ世の害たりなど議するものあれば否然らずとて心理上より論ずるもあり生理上より辨ずるもあるが中に今度英國の醫學會に於て醫學博士ウヰアル、ムールといへるが婦人の高等敎育と題する演說をなしゝより英米の敎育家中に一層の議論を惹起せしと見えたり今英米の敎育雜誌或ハ婦人新聞などの記するところに據り其大要を揭げ他日また記者の考へをも開陳せんと欲するなり」

さて英國醫學會ハ去る八月十日ブライトンといへるところに於て年會を開きたるに會するもの百二十八人ばかりにしてこの日會長たるドクトル、エドワードの欠席せるによりドクトル、ムール代りて議長の席に就き前年度事務上の報告などをなし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夕刻に至り更らに集會を開き議長代ムール氏ハ婦人の高等教育と題する演説をなしたりけるその大意ハヘルボルト、スペンセル氏の説に由り即ち善き生活をなさんとするに第一の要點ハ善き動物たるべきとにして善き動物の寄集りたる國民を形造らんとするハ國民一般の榮えを計るに必要なりといへるを根據となし婦人の醫學者となるハ宜しからず何れの道に於ても男子ハ女子よりも優り且つ強きものなるを男子より劣り且つ弱き婦人がその腦力を以て男子と競爭せんとするハ世の害少なからざるべし即ち女子に高等の教育を授くるハ結婚上に不利にして人の母たるに不適當なり女子の教育その度に過ぐるときハ進歩の益よりも人種を衰微せしむるの害大なりこれを約めていふときハ婦人ハ男子たらんとを勉むべきものにあらずして男子の母たらんとを勉むるにありとの主意なりしがこの演説の電報を以て諸方に知れ亘たりたるや否議論湧くがごとくに起り翌日米國より倫敦毎日新聞に達したる電報に據れば同地にての議論ハ殊に劇しく醫學者中にもムール氏の説に反對するもの多くその説の大要を掲れば氏の説ハ過劇にして取るに足らず且つ近年政府に於て取調べたる統計に由るときハ却て氏の説に反するの結果あり現に昨年高尚なる試驗問題を印刷して婦人卒業生千二百九人に配附したるにその内正當なる答をなし得たるもの七百五人なりしがマサチユーセッツ州の統計局に於てハこの七百五人に就き明細に取調べをなし統計表を出版したるを見るに幼時初等の教育を都府にて受けしもの百人中廿三人地方にて受けしもの五十三人の割合に當り皆五六歳より就學し百人中四十一人ハ家庭に於て學び五十七人ハ小學校に入り孰れも平均一日四時間の修學をなし夫より進んで専門學校に入學したる年齢ハ平均十八歳に當るなり扨てまた専門學校に入學せし時に百人に付不健康なりしもの廿人にして健康のもの七十八人可もなく不可もなきもの二人なりしが在學中に不健康となりしもの百に付十九人五八の割合なるに却て入學前より健康となりしものハ廿一人一三の割合に當り即ち在學中不健康となりしものよりも健康となりしものゝ多きと一、五五の割合なり(未完)

○毛髪の事(第三十六號の續き)

淺黒き毛の人種ハ世界中最も多くして歐洲人種ハ重に淺色の毛なり歐洲にても第十世期前に殖民したる國の人種ハ淺黒き毛と淺色の毛との二種なりしがその後ハ追々混雜せるの傾きあり現今世界中最も善良なる毛髪を有するものハ北緯四十八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

度より北の方に住する人種にして英國、白耳義、北獨逸、魯國の大部分等なり四十八度より四十五度までの間なる佛國の北方、西瑞、澳地利等はみな薄黒き茶色の毛にしてこれより追々に下りて是班牙、ナーブルス、土耳古等は純正なる暗黒色の毛髮なり
扨て毛髮の構造を試驗するにその色の斯く種々に異るは全く毛髮の管中にある水液の色に染るがゆゑなるのみ
美麗なる金色の毛は硫黄質と酸素とに富て炭素に乏しきがゆゑにこの色と光澤とを現し黒色の毛は光澤ありといへども金色の毛に反して炭素に富み硫黄質と酸素とに乏しきがゆゑに黒玉のごとき色をなす事なり
或る有名なる獨逸人は四種の毛色につき頭髮の數を調べたるに黄金色の頭髮は十四万四百本茶色の頭髮十万九千四百四十本黒色のもの十万二千九百六十二本赤色のもの八万八千七百四十本にして黒きと赤き毛との數少なきは毛筋の太きに由り頭皮の目方には相違なしといへり中にても最も細かくして美麗なるは顔の色白く眼の色碧くして黄金色の毛髮ある人なりこれ古來より美術家の稱するところなりセーキスピーアもまた常にその詩中に金色の毛髮とはいひたれども黒色の毛といひしことはたゞ二度ありしのみその他の詩人にても多くは黄金色の毛髮を愛しぬ(完)

○賢女金言集(大坂花のや菀道君報)

阿波内侍曰　善き人は人の過失を詳細に問はず人の善を聞ては我が善きことの如く思ひ悦び人の惡を聞ては我が惡をせし如く思ひ我德行の長高くなるに人の短を正さず其德に從ひて変りいやしむる事勿れ

二條院讃岐曰　今の世の人の生日を喜び祝ひ祭るは僻事なり余は此日に涙を流して母の千辛万苦を思ひ食事をも打忘れ思ひ苦むにたへたり

伊勢曰　うへつ方の人の下つ方の者の罪をゆるさんと思ふには輕き例を引き罪せんと思ふ時は重き例を引く故に古今聖賢の法制やぶるゝなり上つ方の人々のよく〳〵辨へ知るべき事にこそ

菅内侍曰　ものおごろかにして己れを愼む者はやすく金玉身をかざり恣まゝなるはあやまちのはじめなり

伊豫内侍曰　すべての人の言葉の先に出る人は必ず事ならず行ひ先にして言葉の後に出る人は必ず事なりぬ言葉と行ひとは先後あるものなり(以下次號)

六百三十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第八回

春のや主人稿

無心淡白といふ物をこそ、強物の長としもたゝふべけれ、されば鬼神をも、わざむく猛者も彼のあどけなき雅兒には、拳をあてかねてぞたゆたふめる、世に愛すべきもの、神を除きては幼兒のみ、と外國の文人がいひしも宜なり、これも無心なるを崇めてやいひけん、現にや幼兒は無心なればこそ、中にはその面が目安からで、流石に惡さげに見ゆるゝもあれど、去ばし打向ひて扨あるまゝに、終には我しらずて打笑むなれ、「上代の人は質樸にて、あたかも神のごとくありけるを」ト西の教門家のうちなげくも、まことはその無心慕へばなるべし、方便ばかりにて言はるゝことかは、纔しき母子中の折あはぬなども、必竟子よ隔があるからぞや、子にしてあくまでも無心ならんよは、人の情をもて惡まるべきやは、越野はきのふけふ要事ありて、フラ〳〵奥二階へ音信れつゝ、件の無心といふ強物に出逢ひて、心もいつしかに丸うなりゆき、お民を憫然なりと思ふにつけ、何卒一通りは讀書をも敎へて、悴が亞米利加より歸りし後、これがあれの嫁でござります、ト立派にいはれるやう仕立ておき、折々餘所の家へ招かれても、まさかに悴の恥にならざるやう、今から物事を」ト いそがしいは女氣「さりとてまだやう〳〵床上の間際、氣分が十分でもあるまいの」ト「民や」と呼寄せての診察三昧、お民は臺所から走ッて來て、襖を開けかけて俄に中腰、聽て手をつかえてソロリと開け、「お袋……おッかさま、何ぞ御用で「チ、別の用でもないが、マア此方へ這入ッて、チヤ何をしてゐたのだ、大層袖が……エ、お米を磨で、そんな事はお三がする、まだ氣分も全快でないのに、エ、モウ薩張よい、それはマア何よりだが、附いては心持が薩張したなら其方に改めて……何も吃驚するには及ばぬ、何も小言を……おまへの惡い事は病氣ばかり、それさへよくなれば「それではおッかさまは妾の病氣を……わたく……「おまへの病氣を、エ、それが……何も遠慮するに、何でも氣兼せずにいふたがよい、エ、それが「アノー、おッかさまは卑妾のやうなものは……妾は寧そ死んだらうが……アノ……様の爲に」言葉も半分は淚に溺れて何をいふのやら大方は解らず、「緣起でもない、そのよなイヤな事はいふものでない、すんだ事はすんだ事、今更悔むのは愚癡といふもの、おまへの身体さへ丈夫にあれば、そんな喜ばしい事はない「それでは妾が此家に居ても……「おまへが快なッて介抱して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くれゝば、新が居るやうで……(さすがに正直なる心が咎めて、後の一文句をいひかねしが、例の無心といふ強敵を受ては、越野の生れてから吐かぬ僞言を、いはでは叶はぬやうなりたりしか)……わたしは如何にか嬉しからう、時にいふ事が横へろれたが、おまへに聞せるのは外ではない、おまへも薩張とよくなッて見れば、丸切所作のないは体屈であらう、直に今日からといふのではない、何の……「アノ妾が、それでは臺所で、お手傳ひをしても、先達てからしたくッても、アノ何で、「イヤ〳〵臺所はお三の仕事、それはおまへなどが爲てはわるい「それでは何ぞ、アノーお不斷の衣を、木綿物なら綿入れでも「サア仕立物は出來るとの事、それ

六百四十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ハ兼て聞て知つて居ますが、出來ればそれで宜い、習ふにハ及ばぬ、たゞ困るのハ讀事と書事、それが出來ないでハ、……何もさう泣にハ及ばぬ、一生懸命に習へば出來ます、「新」ハ兎も角も學者になり、學者で世に知られる身の上であるゆゑ、おまへが無學でハ……サア斯ばかりじや解るまいが、段々その譯も聞す程に、兎に角すこし宛讀書を」トやさしくいひさとせばお民ハイソ＼／＼、どうぞ教へてト熱心なる親附、越野も嬉しくてその日よりの女教師、古びた破両掛かきさがして、鼠の喰おませし女大學、ならびに古手本も取いだして、はじめハ連讀みやら手傳ひ書き、老て根のよき姑母の信切、さぞかし賀のよき嫁女の勉強、わづかに一月ほど過ざる間に、假名字ハ蚯蚓形に書くなるべし

尋常の乙女が物習ふハ、概して褒めらるゝを望むにやあらん、性來好嗜みて學ぶもあらめど、それらハ筭盤の外なるべし、お民ハ夜に晝に暇さへあれば、怪しき手振して文字習ふなる、わづかに一二葉の教科の書を、十度も十五度も繰返して讀むなる、何を頼にして勉強をするらん、褒められやうとてや、年長たり好き嗜みてか、さる性れにハあらず、おもふに彼の一個の「なにがし」のために行くすゑまでも棄られじ、ト禱るおそしき眞情のみ、その唇をや誘ひけん、その指さきをさそひやする、倦める氣しきもなく學びしかば日を經て、出來榮えも口をしからずその身ハ更らなりをしへし身もいと頼母しうおもひけり

その年も冬となりぬ、亞米利加より音信あり「民」へハ例のごとき電信風、こたびハ前かたより短うなりて、わづかに二行ばかり書いたりけり、「あまりといへば本意ない書方、おまへこの返事をかいてやつて、「學者」になッたことを知らせておやり」ト實母がなか＼／＼に腹たつとハ、さても人情こそ奇異なるものなれ、その年も暮て春となりぬ、越野ハお民のこと細々と書きて、折々亞米利加へ送るなるべし、お民に書けといへど耻らひて書のず「もそこし上達てから」トいふのも道理、強ち迫るのもト越野の斟酌、いつしかその年も秋となり鈴虫松虫が風流やかに哭き、栗が無骨氣に笑ふころとなりぬ、越野ハ冬もの〻衣類をそらべて、「今年の冬になッて米國をたち、來年かへるとの兼ね＼／＼の約束、大かた日本服ハ着まいとハおもへど、さりとて一ト通りハ上被や下被も袴ハ斯うやつてア、やつて」ト倅の春服の腹案最中、（下女）御隱居さま、お客さまが………

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎家政要報

○家事會計の心得(前號の續き)

人の妻となり所帯を引受けたる以上ハ可成節倹を行ひ金を貯ふるとハ取りも直さず金を造るとなりと心得べし人の妻となりてハ家事をよく取締り子供を教養し良人の友人を款待し良人ハ日々の職務商業などに勞るゝことあるも妻たるものよくこれを慰さめ家內を愉快になし且つ所帯上の費用を省くとにこゝろを用ふべし扨てまた良人たるものも心得あるべきとにて我が身に屬する世の重荷をば一切その妻に擔はせ置きながら自分ハ種々要なき奢侈に耽り殆んど妻子を忘れたるがごときハ沙汰の限りといふべきなりされば結婚のはじめに我が家産をとりしらべ經濟に心をよせ妻たるものに心配をかくべからず我が妻子の爲めに生命保險などなし置くこと必要なり一朝主人の死沒りたるときハその妻子ハ忽ち路頭に迷ふべしと思ひ迴らすときハ斯る用意なかるへからず外國の或る婦人新聞ハこの事を論じて曰く良人たるものハ新聞紙の廣告欄內に婦人の位置を求むといへる廣告の日々に多きを見るべし斯る廣告をなす人々ハ大体貴婦人と生れたる人にて紳士の寡婦など多かるべし日々の烟の代にもさし支へ往時我が召使ひたる料理人に與へし給料にも足らざる金を得てその日を送らんとするものなり斯く哀れなる有様を見てハなどて行く先きの事を思ひはからざるべきされば之れ等の事もまた他の金錢上の事とゝもに結婚前によく取極めをなしおくこと肝要なり(完)

○吳服太物類　ハ昨年に比ぶるときハ木綿ものハ三割五分絹ものハ五割方も貴しといふ

○葡萄　ハ本年何れの地方も實附ハ宜からざりしも成熟ハ割合によく最早東京近在の品ハ賣切りとなり本場甲州ものゝ出盛りなるも品少く相場も貴く上等一籠一圓より九十錢中等七八十錢下等五十錢內外にして昨年よりハ五割かた貴きよしに聞く

○梨子と栗　梨子ハ流行病のためにや多く買人もなかりしがこの頃に至り俄かに二三割方も引上げたりまた栗ハ昨今菓物市場へ盛んに入荷あるよしなるが本年ハ十分の豐作にて昨年に比ぶれば一二割下落し目下極上一升八九錢下等四五錢ぐらゐなりといふ

○白米　一等米一斗二升六合二等米一斗三升五合三等米一斗四升四等一斗四升九合五等一斗五升六合なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○男の立ちばなし

若き男両人葺屋町の襟善の店頭にて行きあひしに一人は遽だしく手をふりて君には種々のお話説もあれど今急用ができて歸宅する處ゆゑ近日は訪問申さふといふ体の只事ならず見ゆるに一人は驚き急用と仰るは御病人でもござるのかと聞けば一人は打笑みイエ〳〵只今此店で家内の頼みの流行の半襟を買ましたが途中で手間どつて居るうちに流行後れになると大變だから夫ゆゑ立ち話説もお謝絶申したのサ

○女の立ちばなし

幼ともだちの女二人連にて話説をしながらゆくうちに又一人の女に逢ひオヤお春さんお珍しい今は何處にお在なさるへと聞と直此向ふ横町に居ますがお互ひに縁づいてゐられ遂におめに懸りませんでしたがは壯健で結構です。ナニ結構なもんでか本夫は石工ですが碌な職業がなくツて泣言ばかり云て居ますがマア手の明ないがめつけもんでそは。夫だから結構ですはね妾のうちのなんザア細い稼業だのに此比は全で手が明て遊でばかり居ますは。左樣ですかへ若餘りお閑なら些妾の家へお出なさいナ手傳が入用かも知れませんのといへば一人は苦笑をして難有うございますがうちのは箸より外に重い物を持ない人ですからろのお手傳は出來ますまいよとそこ〳〵に別れた跡でお夏さんお春さんにやあきれたねへ困るといふから親切に云てやるに今の返答はどうでせうといへば一人が宥めてお秋さんお憤りでないお春さんのごていしゆは箸屋の下削りをする職人ですものを

○數學問題

家内の人員十六人にて五十日間に一石二斗八升の米を費したり今五人にて六十日間に幾何の米を要するや

○第三十五號數學問題答式の正誤

前號には第三十五號の答式として誤て第三十六號の答式を掲げたればこゝには第三十六號の答式を掲げず解答者の姓名のみを掲ぐべし尤も前號の解答者人名中には第三十五號問題の解當者も混じたるにつき重復を厭はず更らに左に掲ぐ

(第卅六號問題答者)東京長谷川いな○峯愛女○岡山堤金玉生○新潟石嶋信夫○長崎吉尾さな○大阪太田駄郎⊙高崎神谷とし○山田ふみ○水口堂蛇○相州宮本ふで子○駿州村松とく○大阪梅田ふじ江○備後根本四九次郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎寄書

○婦智を進むるの策（前號の續き）

これに反して文字を以てすれば直接に人を感動せしむるとは言語に一歩を讓ると雖も南海北境いはゆる風馬牛も及ばざる所といへども容易に自巳の主義持論を普及せしむるの効あるのみならず將來數千百年の後に傳ふるを得べし加之現今に於ては利器既に備はれり何をか利器といふ曰く貴社叢誌のごとき即ち是れなり斯のごとき利器既に備はれりといへども妾等にして使用せずんば寧ろ無きがごときなり且つ貴社のごときは發行以來漸次改良を行ひ日に進み月に盛んなるの勢ひあり又々今回大に面目を改め讀者諸氏の滿足を計畫されたり故に全國の姉妹諸氏に於てこの器を利用し坐ながら智識を交換し以て智徳を改良進歩し數千年來の陋習を蹴破し以て退ては一身一家の修整を計り進んでは我日本帝國の國威を發揚せしめんとこれ妾が終身の願望なり請ふ全國の姉妹諸氏に妾が文の拙陋を尤めず理の可否を判せられんことを聊か婆心を記して貴社に寄す貴社それ餘白を吝む勿れ

遠江　村松　はる

○貴婦人に子なき故如何を問ふ　井本さん子

煖衣飽食して金殿玉樓に住む貴婦人には兎角子なきもの多く却て貧困に暮すものゝ妻女には非常に子を多く產するものあり西洋にても然りと聞くその理何故なるや識者に問ふ

○楠帶刀　遠江浦川村　諸井　さと

梓弓ひきかへかねてきへし身もほまれは今になほきこえけり

○板築故驛　同　同

うのかみは往き來途絕えし板築のかみかはる世の賴ミなき哉

○宇津谷隧道　同　同

ひらけ行くうつの山路はともかくもいさや尋ねんつたの細道

○夏居所　東京　榊原　重幸

羨まし筧の水のながれ來て夏をよそなる杜のした庵

○枕上聞子規　木下小桃女史

可耐客窓郷夢驚、勸歸渠亦絕無情、東邊是雨西邊月、分界晴陰忽一聲、

殘宵山月小、不寐耽思郷、枕上鵑愁叫、聲々斷我腸、

〔記者曰す以上の詩歌は疾くに寄送になりたりしが餘白なきを以て掲載遲延に及びたりしがゆゑに題意も季候遲れとなりしもあり讀者幸ひに之を諒せよ〕

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

爪生寅先生講述
●通信教授

女子家政學

八月始業

右講義録ハ爪生先生該博ナル學識ヲ以テ米國ノ婦人かたりいれ、びちねる氏著ス所ノでめすてつく、さいゑんすチ骨子トシ其体例ニ倣ヒ本邦ノ風俗人情ヲ洞察シ邦俗ニ適スルヤウ撰述セラレタルモノニシテ左ニ記スル目録ノ如ク順次出板配布ス志アル婦女子ハ續々御申込アレ

●女子家政學目録

總論　女子か家政を司る職掌ハ男子の營業職掌に劣ることなく　家の爲國の爲に大切なる事を論す

第一章　家族の事　主婦ハ一家の總理大臣にして家事大小となく自ら手を下し且强者は己を棄てゝ弱者を扶くるを以て家族の家族たる本分主義とある事等を論す

第二章　住家の事　間取を吟味し勞力時間費用を省て健康動作經濟の便利を計る事等を論す

第三章　室内は健康を保つを目的とする事　空氣の流通人間に必要なる事及肺臓の成立等を論す

第四章　空氣流通の道理を論す

第五章　煖爐大爐烟突の事　各其得失利害を論す

第六章　屋内の粧飾の事　家屋を美麗にそるは教育に必用なる事及家具器什の得失　庭園等の事を論す

第七章　健康に氣を附る事　身体の成立体内諸部の官能機動等を論す

第八章　運動の事　筋肉の成立等を論す

第九章　健康に益ある食物の事　食物の成立利害胃腑の功用消化滋養等の事を論そ

第十章　健康に益ある飲料の事　飲料の利害功用等を論そ

第十一章　屋内身体等清潔法の事　人間の健康快樂は清潔法の如何よ關る事及皮膚其他の成立等を論そ

第十二章　衣服の事骨格の成立及衣服の利害を論ず

第十三章　食物調理の事

第十四章　早起の事其利益及睡眠の時間等を論ず

第十五章　家内の言語作法の事

第十六章　家を治むるには温和を主とそる事

第十七章　諸事規律順序を習慣とすべき事

第十八章　慈悲の事

第十九章　時間と費用の儉約の事

第二十章　精神の健康の事　身体と精神との關係精神の官能精神病の原因等を論す

第二十一章　乳兒扱方の事　其取扱方の利害得失兒と母の食料衣服睡眠入浴空氣の變化生歯の危害諸病等を論ず

第二十二章　子供育養方の事

第二十三章　家内の遊戯世間の義理の事

第二十四章　老人扱方の事

第二十五章　婢僕扱方の事

第二十六章　病人扱方の事

第二十七章　損傷(けが)打撲(あやまち)及消毒藥(さくけし)の事

第二十八章　裁縫(たちぬい)及補綴(つくろい)の事

第二十九章　室内を温め空氣を通ずる事

第三十章　愚蒙なる者家なき者孤獨の者不良なる者扱方の事

東京下谷區練塀町拾四番地開發社内

通信講學會

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區内郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

積文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　初鹿野銕五郎

文學叢誌賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地　大賣捌　修正堂
同　神田區淡路町　同　巖々堂
同　神田區佐柄町廿一番地　同　東海堂
同　日本橋區新葭町　良明堂
同　牛込區肴町十七番地　活神堂
同　芝區愛宕下町二丁目　高槻堂
同　蠣売町弐丁目　信文堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY